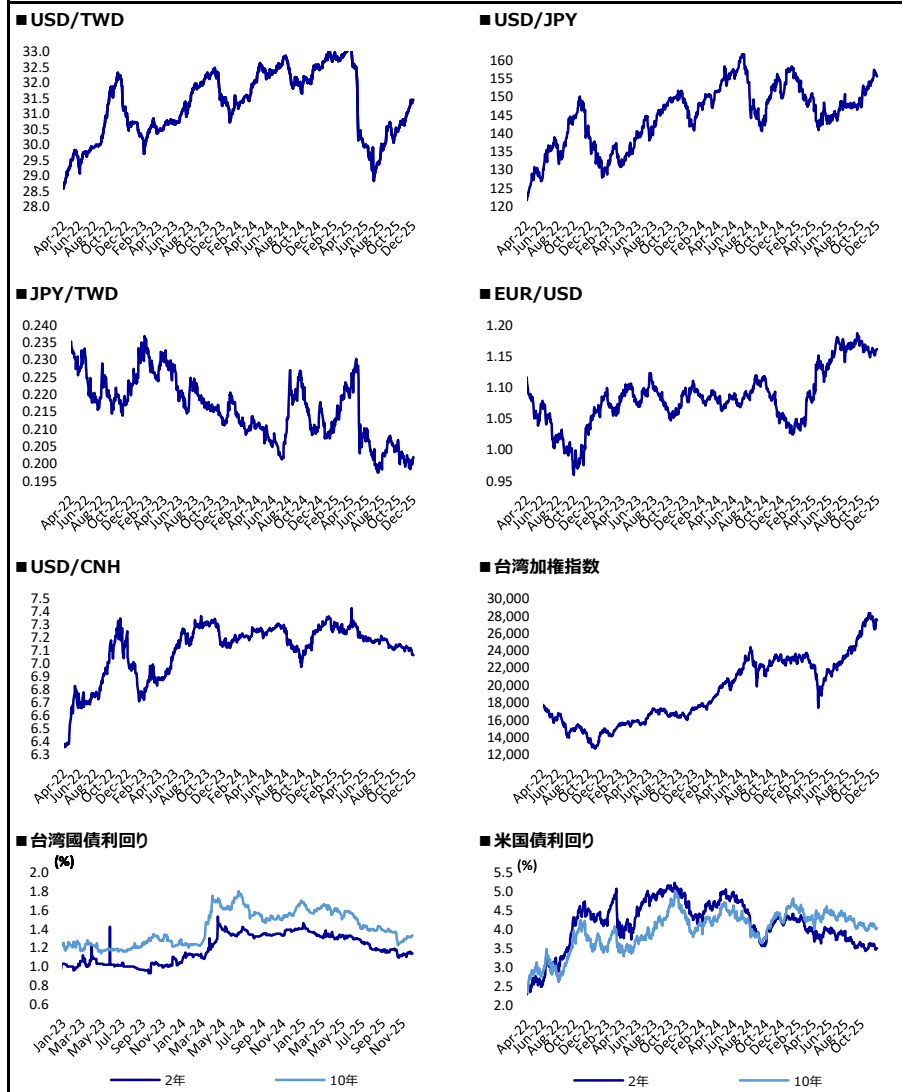


市場動向



先週の市場動向

■USD/TWD
先週のUSD/TWDは下落。週初11/24、USD/TWDは31.410で始値。海外投資家によるドル買いが強まり、株式市場でもAI半導体関連株が日中安値で引けるなど、USD/TWD終値は31.447、7カ月ぶりの高値を記録。25日、朝方は海外投資家による株式売却資金の流出でUSD/TWD続伸したが、午後には中央銀行の流動性供給や輸出企業のドル売りにより、10日連続の台湾ドル下落基調が終了、USD/TWD終値は31.440。26日、米利下げ期待によるドル安に加え、外国人投資家が台湾株を買い越したことに伴う資金流入が主な押し上げ要因となり、USD/TWD下落、31.350でクローズ。27日、USD/TWDは3日続落するも、米感謝祭休暇を控え、ドル安材料は織り込み済みの見方も強く、下げ渋る展開、31.340でクローズ。28日、海外の感謝祭の影響で取引が薄く、市場は31.30半ばで横ばい。午後には、株式市場の海外投資家による大口売り越し額発表を受けて、USD/TWDは31.40以上へ上昇し、週末は31.408で終了。週間を通じて、外国人投資家の株式売り越し額は合計172.1億台湾ドルとなった。

■USD/JPY
先週のUSD/JPYは下落週初24日、156.72円でオープンしたドル/円は本邦休場で薄商いの中で、156円台後半で小動き。海外時間は、高市政権による積極財政に対する懸念を背景とした円売りが継続する中で、一時週高値となる157.18円まで上昇。その後は、米金利低下で嫌気されて156円台後半に値を戻した。25日、ドル/円は156円台後半でもみ合う展開。海外時間は、米9月小売売上高や米11月コンファレンスボード消費者信頼感の予想を下回る結果に加え、次期FRB議長人事に関する観測報道を受け、米金利低下と共に一時156円を割り込んだ。26日、ドル/円は観測報道を背景とした日銀利上げ期待の高まりから円買いが加速し、一時週安値となる155.66円に下落。もともと、日本株高などが支えになる中で156円台を回復。海外時間は、米金利の上下に連れる格好で156円台半ばでレンジ推移した。27日、ドル/円は野口日銀審議委員講演に対する警戒感から円買い優勢となり155円台後半に下落も、海外時間は、新規材料に欠ける中、米国休場もあり156円台前半で小動きとなった。28日、感謝祭の影響で取引が薄く、ドル/円は引き続き156円台前半で取引されている。最終前週比で0.14%の下落となりました。

■USD/TWD 予想レンジ：31.200-31.600
今週のUSD/TWDはレンジ相場になると予想。最近、台湾株式市場も反発し、外国人投資家による台湾株の大幅な売り圧力は緩和された。さらに、米国の利下げ期待が再び高まったことも、台湾ドル安一服の要因に。今週の米国の重要な経済指標が発表される中、米金融政策の動向にも注視したい。USD/TWDはレンジ相場になると予想。

■USD/JPY 予想レンジ：154.50-158.80
今週のUSD/JPYはレンジ相場になると予想されます。日本銀行の植田総裁が講演を行う予定であり、市場はその金融政策の方向性を示唆するような発言の有無に注目。また、米国でも複数の重要な経済指標が順次発表されることから、FRBの金融政策への影響も見極めたい。USD/JPYはレンジ相場になると予想。

今週の予想

12/1 (MON)	台湾11月製造業PMI、米11月製造業PMI、日11月製造業PMI
12/2 (TUE)	米9月JOLTS求人数
12/3 (WED)	米11月非農業部門雇用者数／サービス業PMI、9月輸出入生産指数、9月鉱工業生産指数
12/4 (THU)	
12/5 (FRI)	台湾11月CPI／外貨準備高、米9月PCE、日本10月家計支出

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。